

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	モバイルシステム クリエイト学科	夜・通信	260時間 13単位	240時間 9単位	
	AI・ゲーム クリエイター学科	夜・通信	260時間 13単位	240時間 9単位	
	3DCAD クリエイト学科	夜・通信	268時間 15単位	240時間 9単位	
	情報処理学科	夜・通信	230時間 12単位	160時間 6単位	
	情報システム学科 (アプリエンジニア専攻)	夜・通信	295時間 14単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (高度情報システム専攻)	夜・通信	265時間 13単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (AI 専攻)	夜・通信	265時間 13単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (ゲーム専攻)	夜・通信	265時間 13単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (メディカルSE 専攻)	夜・通信	265時間 13単位	240時間 9単位	
	情報システム学科 (3DCAD 専攻)	夜・通信	281時間 12単位	240時間 9単位	
(備考) 「AI・ゲームクリエイター学科」「3DCADクリエイト学科」は3年生が在籍 「情報システム学科」は5つの専攻に分かれ、1・2年生が在籍 5つの専攻のうち、「アプリエンジニア専攻(2年生)」は、今年度より 「高度情報システム専攻」へ名称変更					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

IVY のホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8647

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

希望者には学校備付けの役員名簿を閲覧させる

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	高等学校 校長	令和5年6月1日～ 令和6年5月31日	教育的助言
非常勤	元職員	令和5年6月1日～ 令和6年5月31日	運営的助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	IVY 大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>○教育課程(カリキュラム)の編成について</p> <p>実施する授業科目、及びその講座内容については、各学科職員会議にて、講座の実施状況や学生アンケートに基づき改善検討を行い、新年度教育課程の策定を行う。策定された教育課程に基づいて授業計画を立てる。一部学科については、「教育課程編成委員会」を実施し、その討議内容に基づいて、教育課程の策定を行う。</p> <p>授業計画書(シラバス)については、「IVYシラバス作成ガイドライン」に従って、各教科担当教員が新年度前に完成させる。様式及び記載項目(科目名、時間数、科目概要、学習到達目標、講義計画、使用教材、実習環境、目標資格、成績評価方法)、表現方法などを統一している。</p> <p>また、授業計画書(シラバス)は、新年度の入学式後に、学生に対してホームページ上で公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	IVYのホームページで公開 https://www.ivy.ac.jp/?page_id=7693
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>○授業科目に対する成績評価</p> <p>科目毎の評価方法は、授業計画書(シラバス)に記載した評価方法に基づいて行う。また、評価については、授業科目の「到達目標」に応じた総合評価とする。</p> <p>講義・演習科目については、講座終了時に期末試験を実施する。その試験結果及び学修状況(履修状況やレポート提出状況)等に基づいて評価を行う。</p> <p>また、実習実技科目においては、実習成果物及びその提出状況・実技試験及び学修状況などのいずれか、又はこれらを総合的に判断して評価を行う。実習成果物で未提出のものがあれば、評価はしない。</p> <p>評価については、特に定めがない場合、100点を満点として、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(60点未満)の区分により示し、S・A・B・Cを合格、Dを不合格とする。</p> <p>○履修認定について</p> <p>各授業科目の授業時間数の80%以上の出席がなければ認定はしない。80%以上の出席を満たした者で、成績評価判定で合格した者に対し、履修認定を行う。</p> <p>尚、補習等において追加課題などの措置を実施し、条件を満たした時点で評価・履修認定を行う。また、補習等を実施しても、条件を満たさない場合は不合格とし、履修認定はされない。</p> <p>この内容については、学生便覧に記載するとともに、入学時のガイダンスにて説明を行う。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
成績評価による学業結果を総合的に判断する指標として、GPA (Grade Point Average : 成績指標値) を用いる。
GPAは、成績評価のうち、Sは4点、Aは3点、Bは2点、Cは1点、Dは0点 をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、履修科目の総単位数で除して算出する。
GPAの学生及び保証人への通知は、学期GPA及び通算GPAを各学期における成績と併せて通知する。ただし、学生が保証人の同意を得て保証人への成績通知を不要とする場合には、この限りでない。
本学卒業時の通算 GPA は、成績原簿に記録するものとする。
また、同様の内容を学生便覧に記載し、学生への説明会を行うとともにホームページにて公開する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	学生便覧に記載するとともに、ホームページで公開する。 https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8082
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)
IVYの教育目標は学生便覧にも記載しているように、次のようになっている。
○教育目標
1. 専門的最高の知識・技術を身につけること。
2. 専門的資格を取得すること。
3. 希望にかなった就職をすること。
4. 社会人としてのマナーを身につけること。
尚、専門的技術については、教育課程を展開する中で達成できるように指導し、社会性の側面については、日々の生活の中で達成できるように指導している。
以上のことを踏まえた卒業要件を設定し、卒業判定については以下のように規定を定め適切に実施している。
○卒業認定要件
学則に定めるように、以下の条件を満たした者を課程が修了したとして卒業認定する。
① 修業年限以上在学していること。
② 出席率が80%以上であること。
③ 3年課程においては2550時間以上の授業を受講し、93単位以上を取得すること。
④ 2年課程においては1700時間以上の授業を受講し、62単位以上を取得すること。
⑤ 所定の納付金が納められていること。
○卒業認定手続き
担任が卒業要件の充足状況を確認し、卒業判定会議において協議し、学校長が判定を行う。卒業要件を満たさない者については、補習等により要件が満たされた時点で学校長が再判定を行う。
○教育目標及び卒業認定基準の公表
学生便覧に記載し、全学生に配布する。また、入学時にガイダンスにて、新入生に対して説明を行う。

卒業の認定に関する方針の公表方法	学生便覧とIVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=8085
------------------	--

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	I V Y大分高度コンピュータ専門学校
設置者名	学校法人 善広学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	希望者には貸借対照表の写しを配付する
収支計算書又は損益計算書	https://www.ivy.ac.jp/?page_id=6585
財産目録	希望者には財産目録の写しを配付する
事業報告書	希望者には事業報告書の写しを配付する
監事による監査報告（書）	希望者には監査報告の写しを配付する

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

<モバイルシステムクリエイト学科>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	モバイルシステムクリエイト学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	285 単位時間/ 17 単位	1245 単位時間/ 60 単位	1168 単位時間/ 36 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2698 単位時間／113 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		12 人	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 3 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 職業実践専門課程として認定されている学科なので、「教育課程編成委員会」の了解に基づいて教育課程を編成する。1年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどのIT技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2年次以降は、コンピュータシステムの開発実習を通して、プログラマーやシステムエンジニアとしての必要な技術力を育成する。特にグループ学習を利用したアクティブラーニングを実施することで、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。3年次は、IT業界で活躍されている講師によるモバイルアプリ開発や大分大学との連携によるAI学習など新しい技術の学習を行う。最後に、卒業研究として、グループでの作品を作り、発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) ①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 卒業認定基準： ①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>

学修支援等			
<p>(概要)</p> <p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。 ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除 ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。 			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>県内外のIT企業、システム開発会社、システムインテグレータ</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験(サーティファイ)</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
12人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

< A I ・ゲームクリエイター学科 >

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	A I ・ゲームクリエイター学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	370 単位時間/ 22 単位	2056 単位時間/ 91 単位	2103 単位時間/ 69 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			4529 単位時間／182 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人		30 人	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 3 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 1 年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどの I T 技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2 年次以降は、コンピュータシステムの開発実習を通して、プログラマーやシステムエンジニアとしての必要な技術力を育成する。また、ゲームプログラマー、AI システムエンジニアの専攻に分かれて授業を展開する。3 年次は、I T 業界で活躍されている講師によるアプリ開発、ゲームプロジェクト実習を行うと共に、各専攻に特化した授業を実施する。最後に、卒業研究として、グループでの作品を作り、発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) ①出席時間数が、授業時数の 80% 未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 卒業認定基準： ①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80% 以上あること。 ②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が 80% 以上であること。 ②年間取得単位数が 31 単位以上であること。 以上の 2 点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>
学修支援等

<p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。 ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除 ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
（主な就職）			
（就職指導内容）			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
（備考）（任意記載事項） 開設3年目にあたり、卒業生はいません（令和6年3月卒業）。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
34人	1人	2.9%
（中途退学の主な理由） 精神疾患が悪化したことによる登校困難		

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

< 3DCADクリエイト学科 >

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	3DCADクリエイト学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	652 単位時間/ 41 単位	1085 単位時間/ 48 単位	1493 単位時間/ 48 単位	0 単位時間/ 0 単位	170 単位時間/ 6 単位
			3400 単位時間／143 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	15 人	0 人	8 人	9 人	17 人		

(※現在 3 年生が在学中)

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要) 1 年次は、コンピュータの基礎的な学習を行うと共に CAD オペレーションの基本的なことを学習する。また、設計や製図の基礎も学ぶ。2 年次は、CAD オペレーションの技術が試される資格試験 (国家検定) への挑戦や、最新の 3DCAD (建築・機械) の技術を習得する。3 年次は、建築・機械・設備の各分野の設計技法の学習を行う。3D プリンタ・レーザーカッター・VR (バーチャルリアリティ) を活用した制作実習を行い、実際の仕事で使う技術を習得する。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要) ①出席時間数が、授業時数の 80% 未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階 (S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 卒業認定基準： ①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80% 以上あること。 ②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が 80% 以上であること。 ②年間取得単位数が 31 単位以上であること。 以上の 2 点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。</p>
学修支援等

<p>○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。</p> <p>○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。</p> <p>○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、毎年、授業料を10万円免除。総額30万円。 ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から15万円免除。 ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。 ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除 ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (%)	9人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 機械設計会社、建築設計会社、設備設計会社			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI, 一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） CAD利用技術者試験2級、1級、機械設計技術者試験3級、技能検定 機械・プラント製図3級、ITパスポート、MOS、.comBasic			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
24人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		

(中退防止・中退者支援のための取組)

随時、担任による２者面談、３者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。

<情報処理学科>

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報処理学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼 間	1700 単位時間 ／62 単位	180 単位時間/ 11 単位	985 単位時間/ 47 単位	540 単位時間/ 16 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			1705 単位時間／74 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	28 人	0 人	8 人	9 人	17 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）1年次は、コンピュータやネットワーク、セキュリティなどのIT技術の基礎教育を行う。その中で、情報処理技術者の国家試験を受験する。2年次以降は、コンピュータシステムの開発実習を通して、プログラマーやシステムエンジニアとしての必要な技術力を育成する。最後に、実践力を養うために、卒業研究として、グループでの作品を作り発表会を行う。ここで、コミュニケーション力とプログラミング力をアップする。
成績評価の基準・方法
（概要）①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。 ②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S～Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする授業では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C（合格）の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D（不合格）となる。 ③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。
卒業・進級の認定基準
（概要）卒業認定基準： ①2年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。 ②受講授業時間数が1700時間以上で、取得単位数が62単位以上であること。 ③納付金を完納すること。 以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。 進級基準： ①全日の出席率が80%以上であること。 ②年間取得単位数が31単位以上であること。 以上の2点を満たした者は進級できる。 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。
学修支援等
○クラス担任制 各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。 ○個別面談の実施。 出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実

施し、早めの対応を行う。
 尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。
 また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に。入学するまでに申請。学費一部免除
- ・IVY 経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12人 (100%)	0人 (0%)	12人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 県内外のIT企業、システム開発会社、システムインテグレータ、製造業			
（就職指導内容） マナー講座、県内企業との交流会、保護者説明会、就職対応3者面談会、受験時面接指導、キャリア教育（志望動機、履歴書）、就職対策（SPI、一般常識）、就職報告会			
（主な学修成果（資格・検定等）） 基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者能力認定試験（サーティファイ）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（アプリケーションエンジニア専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	220 単位時間/ 13 単位	1170 単位時間/ 56 単位	1268 単位時間/ 40 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2658 単位時間／109 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		8 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 2 年生のみ在学中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療 SE・CAD 技術者等)を 3 年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、IT 技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及び CAD オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>IT 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2 年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>①出席時間数が、授業時数の 80%未满是不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80%以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が 80%以上であること。</p>

②年間取得単位数が31単位以上であること。
 以上の2点を満たした者は進級できる。
 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・AO入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（高度情報システム専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	245 単位時間/ 15 単位	1260 単位時間/ 60 単位	1155 単位時間/ 35 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2660 単位時間／109 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		16 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 1 年生が在学中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>概要）</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療 SE・CAD 技術者等）を 3 年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、IT 技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及び CAD オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>IT 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2 年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>①出席時間数が、授業時数の 80% 未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80% 以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が 80% 以上であること。</p>

②年間取得単位数が31単位以上であること。
 以上の2点を満たした者は進級できる。
 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・AO入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・指定校特待生A：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次10万円免除、3年次5万円免除し、総額25万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による 2 者面談、3 者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（A I システム専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	415 単位時間/ 22 単位	980 単位時間/ 46 単位	1305 単位時間/ 41 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			2700 単位時間／109 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		20 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 1、2 年生が在学中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>概要）</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・A I 技術者・医療 S E ・ C A D 技術者等）を 3 年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、I T 技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及び C A D オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>I T 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2 年次は更にゲーム・A I ・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>①出席時間数が、授業時数の 80% 未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80% 以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が 80% 以上であること。</p> <p>②年間取得単位数が 31 単位以上であること。</p>

以上の2点を満たした者は進級できる。
尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（ゲーム専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	320 単位時間/ 19 単位	2105 単位時間/ 97 単位	1745 単位時間/ 55 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			4170 単位時間／171 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		43 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 1、2 年生が在学中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>概要）</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者（システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療 SE・CAD 技術者等）を 3 年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1 年次は、IT 技術（コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等）の基礎教育を行う授業と、設計や製図及び CAD オペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>IT 技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2 年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3 年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>①出席時間数が、授業時数の 80% 未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して 5 段階(S, A, B, C, D) 評価を行う。尚、S~C は合格、D は不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>（概要）</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3 年以上の年限在学し、全日の出席率が 80% 以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が 2550 時間以上で、取得単位数が 93 単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が 80% 以上であること。</p> <p>②年間取得単位数が 31 単位以上であること。</p>

以上の2点を満たした者は進級できる。
尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（メディカルSE専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼 間	2550 単位時間 ／93 単位	1139 単位時間/ 68 単位	2087 単位時間/ 95 単位	1185 単位時間/ 36 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			4411 単位時間／199 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		1 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 1 年生が在学中) (※2 年生は進級時に AI システム専攻へ移動)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>概要)</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C (合格) の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D (不合格) となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が80%以上であること。</p>

②年間取得単位数が31単位以上であること。
 以上の2点を満たした者は進級できる。
 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在學生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

<情報システム学科（3DCAD専攻）>

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	2550 単位時間 ／93 単位	656 単位時間/ 40 単位	1205 単位時間/ 57 単位	2389 単位時間/ 74 単位	0 単位時間/ 0 単位	0 単位時間/ 0 単位
			4250 単位時間／171 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
150 人		24 人 (学科全体 112 人)	0 人	8 人	9 人	17 人	

(※現在 1、2 年生が在学中)

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>(概要)</p> <p>概要)</p> <p>各業界のシステムに携わるコンピュータ技術者(システムエンジニア・ゲームプログラマ・AI 技術者・医療SE・CAD技術者等)を3年間で育成する。</p> <p>入学時に専攻を選択することにより、1年次は、IT技術(コンピュータ・セキュリティ・プログラミング等)の基礎教育を行う授業と、設計や製図及びCADオペレーションの基礎を学ぶ授業に分かれて学ぶ。</p> <p>IT技術を選択した場合は、基礎教育を学ぶ中で情報処理の検定試験を受験する。</p> <p>2年次は更にゲーム・AI・医療情報の選択授業を実施し、各分野に特化した知識・技術を習得する。</p> <p>3年次は専攻ごとに実践力を身に付けるため、実習を中心とした実務教育を行い、最後に卒業研究および卒業制作として作品を作り、成果発表会を行う。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>①出席時間数が、授業時数の80%未満は不合格とする。</p> <p>②講義・演習を中心とする科目では、各科目の終了時に行う期末試験や資格試験などの結果を考慮して5段階(S, A, B, C, D)評価を行う。尚、S~Cは合格、Dは不合格となる。実習を中心とする科目では、課題の提出による評価を行う。内容が不十分な場合は、再提出となり、すべての課題が提出された段階で、S, A, B, C(合格)の評価がされる。未提出の課題があった場合は、D(不合格)となる。</p> <p>③不合格の場合は、補習などにより、条件を満たした時点で、合格が認定され、単位が取得できる。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業認定基準：</p> <p>①3年以上の年限在学し、全日の出席率が80%以上あること。</p> <p>②受講授業時間数が2550時間以上で、取得単位数が93単位以上であること。</p> <p>③納付金を完納すること。</p> <p>以上の条件が満たされた者は、卒業判定会議にて、学校長が卒業を認定し、卒業証書と専門士の称号を授与する。</p> <p>進級基準：</p> <p>①全日の出席率が80%以上であること。</p>

②年間取得単位数が31単位以上であること。
 以上の2点を満たした者は進級できる。
 尚、条件が満たされない場合にも、考慮すべき事情などがある場合には、職員会議などで審議し、進級を認める場合もある。

学修支援等

(概要)

○クラス担任制

各クラスに1名、担任を配置し、学生の出席状況の把握、修学状況の把握、及び修学支援、進路支援等を個別で行っている。

○個別面談の実施。

出席状況や学修状況を常に把握しながら、問題となりそうな学生については、個別の面談を実施し、早めの対応を行う。

尚、それでも改善が認められない場合は、保護者を含めた3者面談を実施する。

また、中途退学などの懸念がある場合は、スクールカウンセラーも交えた精神的なサポートを行う。

○経済的支援については次のようなメニューが準備されている。

- ・A0 入学者支援：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・特別奨学生支援：筆記試験合格者を対象に、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・指定校特待生B：入学願書提出時の申請により、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・親子・兄弟姉妹補助金制度：親や兄弟姉妹にIVY卒業生（又は在学生）がいる場合、入学願書提出時に申請。2年次学費から10万円免除。
- ・大学・短大新卒者補助金制度：大学又は短大の本年度卒業生（又は見込みの者）、入学願書提出時に申請、1年次学費から10万円免除。
- ・有資格者補助金制度：基本情報技術者・ITパスポートの資格取得者を対象に、入学するまでに申請、授業料を1年次10万円免除、2年次5万円免除し、総額15万円免除する。
- ・IVY経済的支援制度：非課税世帯（又は、同等程度の世帯）を対象に学費一部免除。入学時までに申請（ただし、人数制限あり）。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果(資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項) 開設2年目のため、卒業生はいません			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 随時、担任による2者面談、3者面談により本人及び保護者の意思を確認。退学後の進路についての確認。スクールカウンセラーの活用。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
モバイルシステムクリエイト学科	150,000 円	600,000 円	400,000 円	(3年生のみ在籍)
情報処理学科	150,000 円	600,000 円	400,000 円	
3DCADクリエイト学科	150,000 円	600,000 円	400,000 円	(3年生のみ在籍)
AI・ゲームクリエイター学科	150,000 円	600,000 円	400,000 円	(3年生のみ在籍)
情報システム学科	150,000 円	600,000 円	400,000 円	(1,2年生が在籍)
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) IVYのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=788		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>構成</p> <p>学校関係者評価委員は、業界団体・学術関係・企業委員・卒業生からの5名で構成する。</p> <p>評価項目</p> <p>学校関係者評価委員に、①教育理念・目標、②学校運営、③教育活動、④学習成果、⑤学生支援、⑥教育環境、⑦学生の受入れ募集、⑧財務、⑨法令等の遵守、⑩社会貢献・地域貢献の観点について、状況の説明や様々な取組み事項の説明と自己点検評価の説明をした後、各委員より、学校評価を提出してもらう。</p> <p>評価結果の活用</p> <p>項目毎に改善策を検討し、翌年度の目標設定や取組みに反映する。 具体的には、さらなる業務の効率化や教員に対する先進的な知識・技術の研修会を設ける。 また、卒業生との繋がりを強固にし、卒業後の活動の把握と支援を行うよう努力する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益財団法人 研究所 理事	令和4年4月1日 ～令和6年3月3 1日	有識者 (業界団体)
国立大学 助教	令和4年4月1日 ～令和6年3月3 1日	有識者 (学術関係)
企業 代表取締役社長	令和4年4月1日 ～令和6年3月3 1日	企業委員
企業 代表取締役社長	令和4年4月1日 ～令和6年3月3 1日	企業委員・卒業生
企業 代表	令和4年4月1日 ～令和6年3月3 1日	企業委員・卒業生

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Yのホームページ https://www.ivy.ac.jp/?page_id=1199
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) I V Yのホームページ https://www.ivy.ac.jp
